

アンケート調査から見た

『リハ資源の少ない地域での課題について』

医療法人社団 慈優会 九十九里病院 岩瀬 友宏



アンケート調査のきっかけ

H30.3月：ある市町村より小児の言語・発育発達の遅れについて個別相談を行って欲しいと相談あり（2市町村）。しかし当院には小児領域の経験を有する言語聴覚士（以下ST）が在籍しておらず、近隣の医療機関にも相談したが対応が困難。→千葉リハへ協力依頼する。

そもそも小児領域を経験したことがあるSTが在籍している医療機関や施設を把握していない。

H31.3月：山武長生夷隅圏域連絡協議会にて、協議会委員より「実際に山武長生夷隅の圏域内にどのような事ができるリハビリ専門職が、どこに在籍しているかを把握してほしい」とご助言を頂いた。

概要

回答対象：山武長生夷隅圏域内に在籍するリハビリテーション専門職 期間：令和1年7月16日～8月31日

方法：「Googleフォーム」にてアンケート作成。

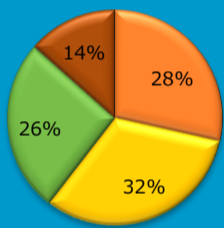
リハビリ専門職へURL又はQRコードを記載したアンケート案内を郵送し、そこからアンケートを読み取り回答頂く。

結果

有効回答数：200名（PT：146名 OT：39名 ST：15名） 回答率：53.1%（協力を得られた機関のみで計上）

回答施設数：37機関（50機関中） 【医療：20機関 介護：16機関 大学：1機関】

経験年数



- 1年目～5年目
- 6年目～10年目
- 11年目～15年目
- 16年目以降

	脳血管	運動器	呼吸器	心疾患	がん	その他
就学期・小児・就労支援（3分野全て）	3	6	0	0	0	0
就学期・就労支援（小児を除く2分野）	10	20	0	0	0	0
就学期・小児	4	8	3	0	0	1
小児・就労支援	1	0	0	0	0	0
小児	4	1	1	0	0	1
就学期	10	28	9	6	6	6
就労支援	54	41	30	12	16	5
全て経験したことがない	108	96	157	182	178	187

考察

特に小児領域の経験を有するリハビリ専門職が極めて少ないため、圏域内において小児のリハビリを受け入れる事も困難な状態。10年以上の経験を有するセラピストは全体の4割を占めており今後も様々な分野を経験することは難しいのではないかと考えられる。若手セラピストのOJTの場もないため、今後も圏域内において小児領域を経験することは難しいと考えられる。

今後の課題

圏域内だけでなく、他圏域、千葉県リハビリテーションセンター、職能団体等と協働した**教育システム**や**支援方法**を検討する必要がある！

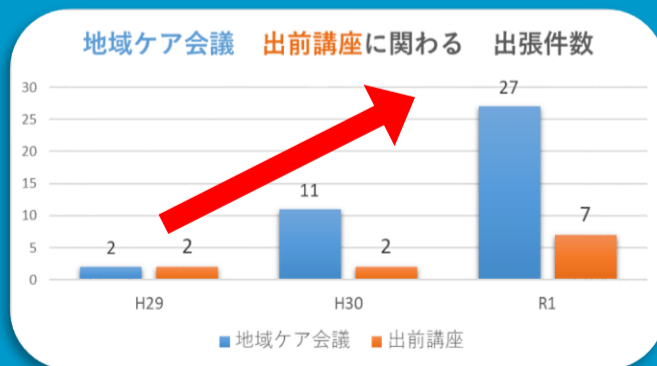
その他の広域支援センターとしての活動報告

①コグニサイズでの認知症予防活動♪



コグニサイズ指導者研修終了者が在籍しており、認知症予防と共にコグニサイズの普及活動も行っております！

②最近の出張依頼の動向



③災害時の活動



倒木の影響から停電が長期化したため独居高齢者宅へ安否確認に同行。



安房地域にJRATリエゾンチームとしてスタッフを派遣。平時から災害時の行動について準備することが大切だと痛感した。



～九十九里病院 DATA～

病床数：一般病棟【30床】
回復期病棟【50床】
地域包括ケア病棟【50床】
療養病棟【48床】

リハビリテーション科

理学療法士【25名】作業療法士【8名】言語聴覚士【5名】
助手【3名】介護福祉士【2名】 マッサージ師【1名】

リハビリテーション科理念：「いつまでも元気に暮らせる町づくり」